

AC【3週毎/乳】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		アロキ+デキソト	副作用を予防します。
2		ドキシリジン注	治療のお薬です。 約3分かけて注射します。
3		インドメタシ注射用	治療のお薬です。 約30分かけて点滴します。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		メトクラプロ	副作用(吐き気)を予防します。吐き気がなくても指示通り1日1回朝食後に服用します。治療当日は点滴の前にも服用します。
2		デキサメタゾン錠 0.5mg	副作用(吐き気)を予防します。
3		セノコロン錠12mg	下剤です。便秘する時は、寝る前に2錠服用します。
4		レボフロキサシリン錠500mg	抗生剤です。発熱時(37.5度以上)服用開始し、翌日または翌々日までには受診して下さい。1日1回、食事・時間に関係なく開始日と同じ時間に3日間続けて服用します。

投与スケジュール

薬品名	日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
ドキルビシン塩酸塩注射用	↓																												
インドキサトメドール注射用	↓																												

治療は、3週間に1回行います。これを4回繰り返します。

AC療法【3週毎/乳】

よく起こる副作用

★尿の着色

発生時期 薬剤投与日～2日目位まで

症状 ドキソリビシン注の赤い色が尿に出ることがあります。

対処法 通常2日以内に元にもどります。ただし痛みをともなう時はすぐ医師や看護師、または薬剤師に相談して下さい。

★悪心・嘔吐

発生時期 薬剤投与日～5日目位まで

症状 食欲が落ちたり、においに敏感になったり、胃が重たく感じたりします。ときどき吐くこともあります。

対処法 ○治療の前に吐き気止めの注射を行います。吐き気止めの薬を飲むこともあります。
○脱水をおこさないように水分はこまめにとるように心がけましょう。
○吐き気があるときは無理して食べる必要はありません。口当たりのよいものを少量ずつとりましょう。
○吐き気が強く食事できないときは、栄養や水分を点滴で補給することもあります。

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日に減少します

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。
<代表的な症状>

●感染症：37.5℃以上の発熱、風邪症状（寒気・ふるえ・咳等）膀胱炎など

●貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など

●出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。

○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。

○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。

○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★脱毛

発生時期 治療開始日から2～3週間後に始まりますが、治療が終われば必ず生えてきます。

症状 徐々に抜け毛が多くなり、2ヶ月以内でほぼ抜けてしまいます。場合によりまつ毛や体毛も抜けることがあります。

対処法 ○今のところ有効な防止策はありません。髪を短くカットされておいた方がよいでしょう。

○市販のウィッグやバンダナ、帽子などで、おしゃれを楽しむ気持ちをお持ちいただけたらと考えます。（ウィッグに関する資料については、看護師にご相談ください。）

○AC療法中は頭皮も敏感になっていますので、シャンプーやブラッシングの回数を減らしたり、長時間のドライヤーは避けて下さい。

★便秘

発生時期 薬剤投与後～ 通常お薬投与終了後1週間以内に回復します。

対処法 ○あらかじめ下剤が処方されます。排便が無いようなら寝る前に2錠服用して下さい。寝る前の服用で翌朝排便のあるタイプの下剤です。下剤を服用しても便が硬くて出しづらい時は早めに申し出て下さい。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★血管外漏出

発生時期 薬剤投与中～3日目位まで

症状 薬剤(特にドキシルピジン注)が血管(静脈)の外の漏れると、注射部位が硬くなったり、腫れて痛みを感じることがあります。

対処法 ○針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みや腫れなどありましたら、すぐにお知らせください。
○針を刺している腕を動かさないようにしましょう。

★心毒性(心筋障害、心不全)

発生時期 薬剤投与日から1～数ヵ月後以内

症状 手や足首のむくみ、息切れ、動悸、胸の痛みなどの症状があらわれることがあります。

対処法 ○上記の症状が出た時はすぐに医師に連絡し、指示に従ってください。

★出血性膀胱炎

発生時期 薬剤投与日から2～3日目

症状 排尿時痛、頻尿、血尿などの症状があらわれることがあります。

対処法 ○こまめに水分を取るようにし、トイレを我慢しないようにしましょう。
○上記の症状があらわれたときは医師、看護師、または薬剤師にお知らせください。

その他の副作用

★その他

症状 下痢、口内炎、味覚障害、色素沈着、倦怠感等

対処法 ○症状に応じて対症療法を行ないます。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院 (薬剤部)

